

15	新潟大学附属長岡中学校 外 2 校（園）	H29～R3
----	----------------------	--------

令和 3 年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

多様な「生命」のつながりを発展させたり、「生命」の基盤である「安全」な社会を実現したりする資質・能力をはぐくむための、新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発

2 研究の概要（別紙 1：研究の概要図）

これからの社会は、情報化、自然環境の急激な変化などによって、人間の「生命」とその基盤である「安全」を脅かす予測が困難な問題が起きるとされている。そこで私たちは、そのような社会を生きるために、多様な生命のつながりを発展させたり、「生命」の基盤である「安全」な社会を実現したりする資質・能力をはぐくむことが必要であると考えた。

そのためには、「生命」とその基盤である「安全」に関わる諸問題に主体的に向き合うための新領域を設置した上で、各教科・領域等の枠組みを超えて横断的に資質・能力をはぐくんだり、幼小中 12 年間をとおして発展的に学びを進めたりする必要がある。

そこで、「生命」とその基盤である「安全」を学習内容とする新領域「いのち」を設置し、それを中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムを開発することにした。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究仮説

小・中学校で学習内容を「生命」とその基盤である「安全」とする新領域「いのち」を設置し、幼稚園での学びを「いのち」の学習に円滑につなげる幼小接続カリキュラムを作成し、「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムを開発する。これにより、多様な生命のつながりを発展させたり、「生命」の基盤である「安全」な社会を実現したりする資質・能力をはぐくむことができるだろう。

（2）教育課程の特例

「いのち」の設置にあたり、教科・領域横断的に学ぶために、小学校では年間 6 25 時間（6 学年合計）、中学校では年間 270 時間（3 学年合計）が必要となった。そのために、以下のように教育課程の再編を行う。

①小学校では、以下の時数を削減し、「いのち」を設置する。

＜第 1 学年・第 2 学年＞

生活科のすべてと、国語科、道徳科、特別活動の一部を削減する。

＜第 3 学年・第 4 学年＞

総合的な学習の時間のすべてと、国語科、社会科、理科、道徳科、特別活動の一部を削減する。

＜第5学年・第6学年＞

総合的な学習の時間のすべてと、国語科、社会科、理科、家庭科、道徳科、特別活動の一部を削減する。

- ②中学校では、全学年において総合的な学習の時間のすべてと、国語科、社会科、道徳科、特別活動の一部の削減に加え、第1学年と第2学年では、理科、技術・家庭科の一部を削減し、「いのち」を設置する。

※ 各教科からの授業時数の削減については、削減した時数に応じて「いのち」ではぐくむ資質・能力を明確にして単元開発を行う。そのため、一部時数を削減する各教科等の内容については、すべて現行の学習指導要領に示されたとおりに取り扱う。

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

①学習内容としての「生命」とその基盤である「安全」の定義

生命と安全の学習内容としての定義を以下のとおりとする。

「生命」	有限性、固有性、相互性、連続性という要素をもつ生物の有り様、生き方
「安全」	生命を脅かす、大きなリスクがないこと

小・中学校において、上記の「生命」と「安全」を学習内容に位置付けた単元開発と実践を行った。

②幼稚園における保育実践

幼稚園においては、目指す遊びを「心を動かしながら、主体的に環境に働きかけて楽しむ遊び」とし、その視点から教育課程を編成し、実践した。そのような遊びになれば、資質・能力のはぐくみにつながると考えた。

③育成する資質・能力

先行実践を資料として協議を重ね、「意味や本質を問い、納得解・最適解を求め続けるために必要な資質・能力」という観点から3種類9つの資質・能力を設定した。

認知的資質・能力 (知識・技能を生かして 思考・判断・表現する力)	社会的資質・能力 (他とよりよく かかわるための力)	実践的資質・能力 (自己を見つめ、 自ら行動するための力)
【論理的思考力】 根拠にもとづいて筋道立てて考 える力	【敬意】 周囲の人・もの・ことの価値を認 め、大切にしようとする態度	【粘り強さ】 困難な事にも立ち向かい、最後 までやり遂げようとする態度
【先を見通す力】 ある行動や出来事、働きかけの 結果を予測したことにもとづき、 適切な判断をする力	【共感的態度】 他者の心情を受け止めようとし る態度	【探究心】 より詳しく知りたいと思う気持ち や知りたいことや解決したいこと を見つけようとする態度
【伝える力】 適切な表現方法で自分の考え を表す力	【協働する力】 学びを深めたり、目標を達成し たりするために、他者と協力す る力	【省察的態度】 自分が考えていることや理解の 程度、感じていることなどを把握 し、それに応じて思考や行動など をよりよい方向に進めようとする 態度

④授業時数等

- ・小学校では、「いのち」の年間時数が各学年により異なるため、各学年で「いのち」の年間総時数に合わせて、週3～4時間を「いのち」の時間として設定した。
- ・時数移譲の根拠となる、「いのち」でより確かにはぐくむことが期待される具体的な資質・能力を、各教科で整理した。

⑤評価方法

ポートフォリオやパフォーマンステストや、単元におけるルーブリックの設定などによって資質・能力の評価を進めた。

また、資質・能力のはぐくみを見取るための質問紙（質問紙A）と、「生命」とその基盤である「安全」をどのように理解しているかを問う質問紙（質問紙B）を作成・実施した。AとBを合わせて分析し、「生命」「安全」について学ぶことが、資質・能力の確かなはぐくみにつながることを確かめた。

⑥研究体制

「評価推進チーム」「質問紙調査チーム」「指導計画チーム」「渉外チーム」の4つを設置し、管理職を除く全職員がいずれかのワーキングチームに所属した。

(2) 研究の経過

	実施内容等
第一年次	<p>「生命」の基盤である「安全」な社会を実現する資質・能力をはぐくむための幼小中一貫カリキュラムの開発</p> <p>①現状のカリキュラムにおける問題点の分析</p> <p>②求める子供のカリキュラムにおける問題点の分析</p> <p>③「いのち」の学習指導要領及び年間指導計画の検討</p> <p>④幼稚園における「いのち」のテーマに関連する遊びや活動の内容の検討</p>

	<p>⑤開発したカリキュラムの妥当性の検討</p> <p>⑥公開研究会の開催</p>
第二年次	<p>「生命」の基盤である「安全」な社会を実現する資質・能力をはぐくむための幼小中一貫カリキュラムの実践</p> <p>①求める子供に必要な資質・能力の見直し</p> <p>②資質・能力の発展的なはぐくみの在り方の再検討</p> <p>③「いのち」の学習指導要領及び年間指導計画の作成・実施</p> <p>④幼稚園における「いのち」の学びにつながる遊びの検討</p> <p>⑤「いのち」の学習に円滑につなげるための幼小接続カリキュラムの作成</p> <p>⑥実践したカリキュラムの評価と改善策の検討</p> <p>⑦公開研究会の開催</p>
第三年次	<p>「生命」の基盤である「安全」な社会を実現する資質・能力をはぐくむための幼小中一貫カリキュラムの修正</p> <p>①求める子供に必要な資質・能力の発展を描いた一覧表の作成</p> <p>②「いのち」の学習指導要領及び年間指導計画の見直し</p> <p>③「いのち」実践事例集の作成・検討</p> <p>④幼稚園における「いのち」の学びにつながる遊び「心を動かしながら、主体的に環境に働きかけ楽しむ遊び」を支える手立ての検討</p> <p>⑤幼小接続カリキュラムの実践を通じた修正</p> <p>⑥改善し実践したカリキュラムの評価と妥当性の検討</p> <p>⑦公開研究会の開催</p>
第四年次	<p>「生命」の基盤である「安全」な社会を実現する資質・能力をはぐくむための幼小中一貫カリキュラムの提言</p> <p>①求める子供に必要な資質・能力とその発展的なはぐくみを描いた一覧表の完成</p> <p>②「いのち」の学習指導要領と年間指導計画の完成</p> <p>③「いのち」実践事例集の完成</p> <p>④幼稚園における「いのち」の学びにつながる遊び「心を動かしながら、主体的に環境に働きかけ楽しむ遊び」を支える年間指導計画の完成</p> <p>⑤幼小接続カリキュラムの完成と提案</p> <p>⑥開発・実践したカリキュラムの評価と提案</p> <p>⑦公開研究会の開催</p>

(3) 評価に関する取組

	評価方法等
第一年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いのち」を中心とした幼小中一貫カリキュラムの開発について運営指導委員，外部講師，大学教員などから指導や助言を得る。 ○ 小・中学校の「いのち」において，設定した資質・能力がはぐくまれているか，「いのち」の見方・考え方を働かせているかを見取る記録シートやチェックリストの作成・検討を行う。 ○ 幼稚園の遊びや活動での子供の姿を記述・蓄積する。 ○ 小・中学校の「いのち」において，「いのち」の見方・考え方を

	<p>どの程度働かせているか、資質・能力がどの程度はぐくまれているかを評価する質問紙の作成・検討を行う（2月に小・中学校の全ての子供を対象に暫定版の質問紙を用いて予備調査を行う）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼稚園で、資質・能力がどの程度はぐくまれているのかを評価するチェックシートの作成・検討を行う。（2月に職員によるチェックシートを用いた予備調査を行う）。 ○ 資質・能力の評価に関する職員研修を行う。 ○ 6月に公開授業を行い、指導者や参会者などから評価を得る。
<p style="text-align: center;">第二年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いのち」を中心とした幼小中一貫カリキュラムの実施について運営指導委員，外部講師，大学教員などから指導や助言を得る。 ○ 小・中学校の「いのち」において，記録シートやチェックリストを用いて，設定した資質・能力がはぐくまれているか，「いのち」の見方・考え方を働かせているかを評価する。 ○ 幼稚園では，遊びや活動での子供の姿から「いのち」につながる遊びとは何かを考察し，「いのち」の学習に円滑につながる幼小接続カリキュラムの内容を検討する。 ○ 小・中学校の「いのち」において，「いのち」の見方・考え方をどの程度働かせているか，資質・能力がどの程度はぐくまれているかを評価する質問紙調査を実施し（5月と11月。対象は小・中学校のすべての子供），結果を分析する。 ○ 幼稚園では，資質・能力がどの程度はぐくまれているのかをチェックシートを用いて評価し結果を分析する。 ○ 資質・能力の評価に関する職員研修を行う。 ○ 5月に公開授業を行い，指導者や参会者などから評価を得る。
<p style="text-align: center;">第三年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いのち」を中心とした幼小中一貫カリキュラムの実施について運営指導委員，外部講師，大学教員などから指導や助言を得る。 ○ 小・中学校の「いのち」において，記録シートやチェックリスト等を用いて，設定した資質・能力がはぐくまれているか，「生命」と「安全」をどのように理解しているかを評価する。 ○ 幼稚園では，遊びや活動での子供の姿を記述・蓄積して，「いのち」の学習に円滑につながる幼小接続カリキュラムとなっているか評価する。 ○ 小・中学校の「いのち」において「生命」と「安全」をどのように理解しているか，資質・能力がどの程度はぐくまれているかを評価する質問紙調査を実施し（5月と11月。対象は小・中学校のすべての子供），結果を分析する。資質・能力のはぐくみの相関の分析，潜在成長モデルを用いた経年変化に関わる分析も行う。 ○ 幼稚園では，資質・能力がどの程度はぐくまれているのかを分析する。 ○ 附属長岡小学校卒業生と他の小学校卒業生のデータを比較する。 ○ 資質・能力の評価に関する職員研修を行う。 ○ 「生命」や「安全」に関わる外部講師を招いて職員研修を行う。 ○ 9月に公開授業を行い，指導者や参会者などから評価を得る。 ○ 校園の教職員を対象に，研究開発の効果を評価する質問紙調査を実施する。

第四年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いのち」を中心とした幼小中一貫カリキュラムの実施について運営指導委員，外部講師，大学教員などから指導や助言を得る。 ○ 小・中学校の「いのち」において，記録シートやチェックリスト等を用いて，設定した資質・能力がはぐくまれているか，「生命」と「安全」をどのように理解しているかを評価する。 ○ 幼稚園では，遊びや活動での子供の姿を記述・蓄積して，「いのち」の学習に円滑につながる幼小接続カリキュラムになっているか検証する。 ○ 小・中学校の「いのち」において「生命」と「安全」をどのように理解しているか，資質・能力がどの程度はぐくまれているかを評価する質問紙調査を実施し（5月と11月。対象は小・中学校のすべての子供），結果を分析する。資質・能力のはぐくみの相関の分析，潜在成長モデルを用いた経年変化に関わる分析も行う。 ○ 幼稚園では，資質・能力がどの程度はぐくまれているのかを分析する。 ○ 附属長岡小学校卒業生と他の小学校卒業生のデータを比較する。 ○ 資質・能力の評価に関する職員研修を行う。 ○ 「生命」や「安全」に関わる外部講師を招いて職員研修を行う。 ○ 公開授業を行い，指導者や参会者などから評価を得る。 ○ 校園の教職員を対象に，研究開発の効果を評価する質問紙調査を実施する。
-------------	--

5 研究開発の成果

（1）実施による効果

①子供への効果

「資質・能力のはぐくみを自覚する子供が増加する。特に小学校4年生以上に多く見られるようになる。」

年2回の質問紙調査の結果から，小学4年生以上において，データに有意な高まりが認められた項目が多いことから，資質・能力のはぐくみを自覚する子供が増えてきていることが分かった。小学2年生，小学3年生においては，小学2年生の「先を見通す力」の高まりに，有意傾向が認められたものの，他の項目に有意な高まりは認められなかった。このことから，資質・能力の自覚化については，小学3年生から小学4年生の間に，発達の節目がありそうなことが見えてきた。

「資質・能力が連動してはぐくまれる。また，子供自身がルーブリックを設定できる。」

「いのち」における資質・能力の質的評価として，単元においてルーブリックによる自己評価を行うこととした。単元始めの段階でルーブリック評価を行うことで，子供と教師が単元で目指す姿を共有し，子供が自己の資質・能力の変容をとらえられるようにすることを目指した。

抽出児の振り返りからは，9つの資質・能力は別々にはぐくまれるのではなく，それぞれが関係し合っているということが見えてきた。さらに，中学校では，はぐくみたい資質・能力を学習内容に照らし合わせることで，子供自

身が具体的な姿としてルーブリックを設定することができた。

「振り返りタイム」の取組からは、子供に自己の行動の変容やよさをとらえさせることで、資質・能力のはぐくみを子供に自覚させることができると分かった。

②教職員への効果

アンケートの回答から、「いのち」の学習内容や目指す子供の姿についての教師の理解が、年次が進むにつれて高まっている。また、アンケートからは、「いのち」の年間指導計画や単元を地域の学校に提案できると当校職員がとらえている実態が明らかになった。このことから、当校の「いのち」への取組の有効性を職員が感じていると分かる。当校から異動していく職員が、地域の学校でもその知見を生かしていくことが期待できる。

③保護者への効果

学校評価の保護者アンケートの自由記述からは、保護者の「いのち」への理解は深まっている。しかし、一方で、「いのち」の学習の取組が十分に伝わっていないとの声も届いている。また、学習内容について上手く保護者に伝えられない子供もいるため、魅力ある単元づくり、子供が主体的に取組むことができる授業づくりを行って子供が学習内容について語るができるようにしていく必要がある。ホームページに取組の紹介を継続するとともに、リーフレット等を含めて多様な形式で示していく必要もある。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

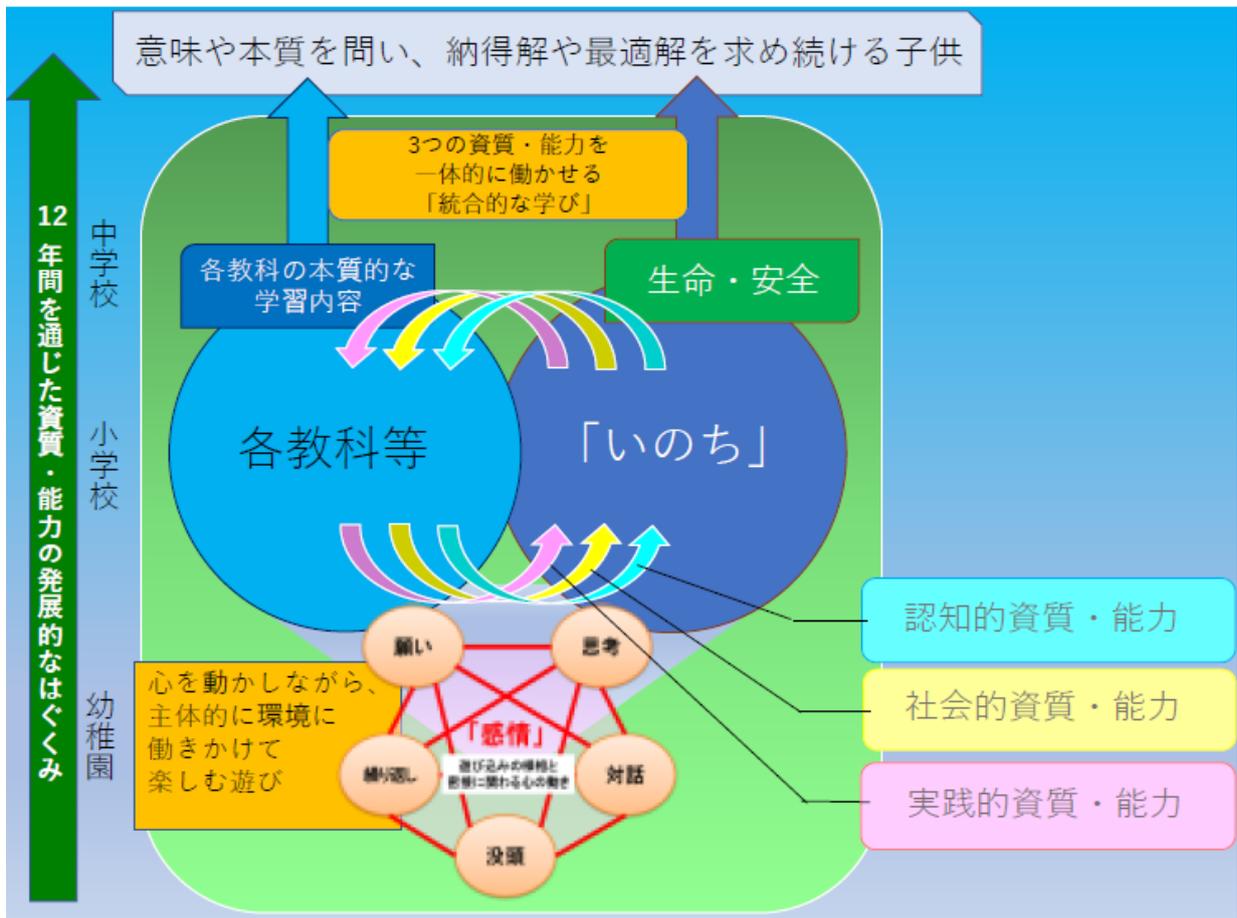
①主体的な学びへの手立てが必要である

「いのち」の学習モデルでは矛盾や対立を見出すことから自分事と感じて追究していくことを想定している。しかし、子供の学びが主体的に行われるためには、子供自身が課題を見出し、解決方法を見通すこと。学びの後に自分の学んだこと、学び方の意味を振り返ることが含まれる。子供が学びを進めるための手立てを開発することが必要である。

②学習形態の開発が必要である

質問紙調査を分析すると、令和2年に比べて令和3年は、子供が実感する資質・能力のはぐくみの度合いが低く表された。例年との違いは、新型コロナウイルス感染拡大により、取材や訪問等が制限されたことである。ICTの活用で質を落とさない代替となる方法を開発しているが、今後も継続する必要がある。

研究の概要図



新潟大学附属長岡小学校 教育課程表(令和3年度)

	各教科の授業時数										特別の教科である道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	新領域「いのち」	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語						
第1学年	301 (-5)	—	136	—	0 (-102)	68	68	—	102	—	29 (-5)	—	—	31 (-3)	115 (+115)	850 (0)
第2学年	310 (-5)	—	175	—	0 (-105)	70	70	—	105	—	30 (-5)	—	—	30 (-5)	120 (+120)	910 (0)
第3学年	240 (-5)	65 (-5)	175	85 (-5)	—	60	60	—	105	—	30 (-5)	35	0 (-70)	30 (-5)	95 (+95)	980 (0)
第4学年	240 (-5)	85 (-5)	175	100 (-5)	—	60	60	—	105	—	30 (-5)	35	0 (-70)	30 (-5)	95 (+95)	1015 (0)
第5学年	170 (-5)	95 (-5)	175	100 (-5)	—	50	50	55 (-5)	90	70	30 (-5)	—	0 (-70)	30 (-5)	100 (+100)	1015 (0)
第6学年	170 (-5)	100 (-5)	175	100 (-5)	—	50	50	50 (-5)	90	70	30 (-5)	—	0 (-70)	30 (-5)	100 (+100)	1015 (0)
計	1431 (-30)	345 (-20)	1011	385 (-20)	0 (-207)	358	358	105 (-10)	597	140	179 (-30)	70	0 (-280)	181 (-28)	625 (+625)	5785 (0)

新潟大学附属長岡中学校 教育課程表(令和3年度)

	各教科の授業時数									道徳	総合的な学習の時間	特別活動	新領域「いのち」	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	135 (-5)	100 (-5)	140	100 (-5)	45	45	105	65 (-5)	140	30 (-5)	0 (-50)	30 (-5)	80 (+80)	1015 (0)
第2学年	135 (-5)	100 (-5)	105	135 (-5)	35	35	105	65 (-5)	140	30 (-5)	0 (-70)	30 (-5)	100 (+100)	1015 (0)
第3学年	100 (-5)	135 (-5)	140	140	35	35	105	35	140	30 (-5)	0 (-70)	30 (-5)	90 (+90)	1015 (0)
計	370 (-15)	335 (-15)	385	375 (-10)	115	115	315	165 (-10)	420	90 (-15)	0 (-190)	90 (-15)	270 (+270)	3045 (0)

※ 授業時数、単位数の増減等については、表中に記号を付けたリゴシック体で示す

など，教育課程の基準との対比が明確になるよう記載すること。

学校等の概要

1 学校名，校長名

ニイガタダクフソクヨウチエン 新潟大学附属幼稚園	園長	ヤマカワ 山川	カズコ 和子
ニイガタダクフソクナカオカシヨウガッコウ 新潟大学附属長岡小学校	校長	ヤマザキ 山崎	カツユキ 勝之
ニイガタダクフソクナカオカチュウガッコウ 新潟大学附属長岡中学校	校長	マツモト 松本	ヒロシ 浩嗣

2 所在地，電話番号，FAX番号

〒940-8530 新潟県長岡市学校町1丁目1番1号

学校名	電話番号	FAX番号
新潟大学附属幼稚園	0258-32-4192	0258-32-3705
新潟大学附属長岡小学校	0258-32-4191	0258-32-9397
新潟大学附属長岡中学校	0258-32-4190	0258-32-6340

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数，学級数

新潟大学附属幼稚園

3歳児		4歳児		5歳児		計	
幼児数	学級数	幼児数	学級数	幼児数	学級数	幼児数	学級数
20	1	23	1	22	1	65	3

新潟大学附属長岡小学校

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
70	2	70	2	65	2	70	2	68	2	54	2	397	12

新潟大学附属長岡中学校

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
118	3	118	3	115	3	351	9

4 教職員数

学校名	校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	常勤講師	非常勤講師	ALT (非常勤)	スクール カウンセラー	事務職員	計
幼稚園	1	0	0	0	0	3	1	(1)	0	3	0	0	(6)	8
小学校	1	0	1	1	1	14	1	1	0	2	2	0	(6)	24
中学校	1	0	1	1	1	13	1	(1)	0	6	1	1	6	32

5 研究歴

(1) 文部科学省関係

平成 22 年度～平成 24 年度	研究開発指定
平成 25 年度～平成 27 年度	研究開発指定
平成 28 年度～令和 3 年度	研究開発指定